

【特集】「景観を学ぶー下田市景観計画に携わってー」



下田市景観まちづくり審議会委員
下田市景観まちづくり審議会作業部会副部長

下田土木事務所都市計画課

田中課長インタビュー

●プロフィール
昭和46年（1971）生まれ、島田市出身。
平成6年12月静岡県庁入庁。土木技師として静岡土木事務所 都市計画課に配属。
これまでに通算10回の異動を経験し、令和3年4月より下田土木事務所 都市計画課長として着任し、現職。
趣味は、読書・ジョギング・釣り。

下田市の景観施策へ携わっていただいている下田土木事務所都市計画課 田中課長にインタビューをさせていただきました。この下田に赴任され、下田の景観をどのように思っているのか。また、市外の人々が下田を見た時にどのように見え、下田の特長をどのように捉えているのか。様々な視点からお話を伺いました。

◆ 本日はインタビューに応じていただきありがとうございます。田中課長は下田土木事務所へ異動されて今年度で2年目になると伺っています。率直に伺いたいのですが、下田の生活はいかがですか？住む前の下田の印象と、住んでからの下田の印象は何か変化がありますか？

（田中課長）

おっしゃるように令和3年4月に下田土木事務所都市計画課長として異動してきましたので、今年度で下田の生活は2年目になりますね。実は以前にも下田に住んでいたことがあって、平成10年4月から3年間住んでいました。当時、入田浜の官舎に住んでいましたが、夏の時期になると海水浴客でよく道が渋滞していたのを覚えています。今はその頃に比べ、コロナ禍ということもありますが、人出が減ってまちが静かになっている気がしますね。それから、下田の気候は住みやすいですね。自分に合っているように思えて、すごく快適に過ごせています。海や山があって自然が豊富ですし、まちが集約されているので生活しやすいという印象ですね。

◆ まさか2度目の下田赴任だと思いませんでしたが、確かにまちの雰囲気は変わってきていますよね。いろいろな方から同じようにお話を伺います。そんな中、田中課長に下田を気に入っていただいていることがすごくうれしいです。
それでは、これから景観に関する内容について伺います。田中課長は、下田土木事務所都市計画課長として下田市の景観まちづくり審議会委員を務めていただいているほか、同審議会の作業部会副部長として、現在「下田市景観計画」の改定作業にも携わっていただいています。ちなみにですが、土木技師として長く現場に携わっていらっしゃると思うのですが、景観行政への関わりはこれまでのキャリアでいかがだったのでしょうか？

（田中課長）

現在のポストになるまで、景観行政に関わったことはありませんでした。例えば、ガードレールの色を決める時も県の指針に則した色を選ぶだけでしたので、あまり意識したことはありませんでした。ただ、先ほど下田に以前住んでいたことがあったとお話しましたが、下田土木事務所にはほかにもう1度在籍していたことがあり、その時は松崎支所に配属されていました。その在籍中に国道136号の道路拡幅工事に関わったのですが、その区間が文化財保護法の名勝「伊豆西南海岸」に指定されていて、工事の企画・実施に際して景観検討会を立ち上げることとなり、そこに参加していました。検討会で議論した結果、周囲の景観に配慮した工法や色彩を取り入れることとなり、この経験を通して初めて周囲に馴染む公共施設を意識しましたね。

◆ 文化財が絡んだ道路工事を経験されていたんですね。ちなみに、先ほどガードレールの色を決める際に県の指針があるとおっしゃってましたが、静岡県で通常工事を行う際、景観に配慮した指針があるのでしょうか？

（田中課長）

県では平成23年6月に「ふじのくに色彩・デザイン指針（社会資本整備）」を策定し、現在では第4版となっています。これは良好な公共空間の形成を目指すもので、県が実施する公共工事において、道路防護柵などの設置頻度が高い構造物の形や色彩について統一ルールを設け、それら以外の構造物についても景観形成の考え方を示しています。公共事業の役割として、安全性の確保や利便性・快適性の向上だけでなく、公共空間の質の向上を図っていくことで、その地域の魅力を引き出し、暮らしの基盤をつくる。そうした考えから生まれた指針になっています。それからこの指針のおもしろいところは、公共事業の景観形成について「みんなにとって“及第点”」を目指していることです。時代の流行や担当者により、景観形成の手法が異なることで、統一感がなく煩雑な印象になることを防ぎ、公共施設が周囲の景観に溶け込み、その地域の魅力を引き出す効果につながるのではないかと考えてます。



松崎町石部地区 国道136号 富士見橋
（石部港より撮影）

◆ いわゆる「主役」にはならないものの、その地域の“ベース・基礎”となるような計画であったり、工事を実施していこうという目標なのですね。
確かに下田市内において考えると、およそ2年前に国道135号の尾ヶ崎ウイングから白浜方面に向かっての下り車線、海側の崖にあった樹木を修景伐採していただきました。当初は、“場”が変化したことへの反応から、皆さんより多くの反響があったと思いますが、シンプルに伐採したこと、歩道に設置されている転落防止柵が景観に配慮した色彩になっていることで、それらが特に目立つわけではなく、周囲の景色に溶け込んだ景観を形成していることで、今では当たり前の景色になっていますね。
次に、先ほど田中課長から景観行政にはじめて関わられた時のお話を伺いましたが、課長自身は、この「景観」をどのように捉えていらっしゃるでしょうか？

（田中課長）

簡単には定義できませんが、私自身が考えることとして、「景観」という字が示すとおり、それ自体は“景色”であり、“観られるもの”であると捉えています。景色の中には、“自然”もあれば“人が暮らす風景”もあります。そうした中で、もちろん住んでいる人の意見が1番ですが、住んでいる人の他に観光などで訪れる人の感じる良い景観が、住んでいる人と同じになること、それが理想だと思っています。

◆ おっしゃるように、住んでいる人にとっても、それから訪れる人にとっても、良いと思える景観を形成することができれば、それはまさに理想であると思います。そうした理想に近づいていくためにも、現在市が取り組んでいる「下田市景観計画」による景観形成は重要だと考えています。田中課長から見て、下田市の景観計画はいかがですか？

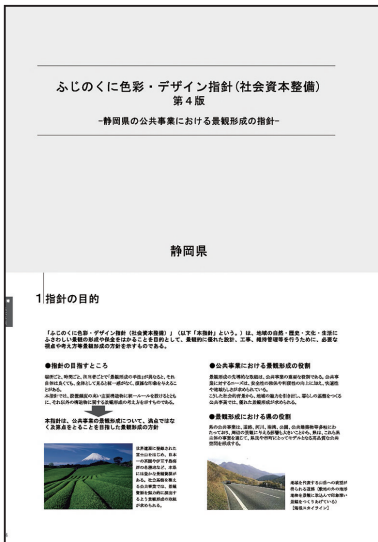
（田中課長）

下田市景観計画では、下田を象徴し、下田らしいものを未来へつなげていくために必要な内容が記載されていて、「下田まち遺産」を残していくための計画となっています。計画を策定した目的が明確になっている点と、計画の中で「景観形成デザインガイドライン（運用マニュアル）」を早期に策定する目標を立てているなど、凝り固まった計画ではなく、時代に合わせ進化させていく計画となっている点が特徴だと思います。しかしながら、計画策定時はこのような内容で良かったと思いますが、ただ「下田まち遺産を残していく」だけでなく、それらを生かしのどのような景観に誘導していくのか明確にするとともに、だれもが理解できるような内容にすることで、より良い計画になると思います。また、この計画を皆さんに知っていただけるよう周知を図っていくことも同時に重要だと思います。繰り返しになりますが、下田を象徴し、下田らしいものを未来につなげていこうとする「下田まち遺産」の取組は、非常に良い取組だと思います。この取組により市民の皆さんが下田の良さを再認識し、その資源を未来に残していこうとする風土につながると思います。こうした、計画策定による景観誘導を図っている下田市は、積極的に景観施策に取り組んでいると思います。今後は担当課のみならず、他課も積極的に景観施策に取り組むことで、組織の横断的な連携を図るとともに、下田市民の景観に対する意識向上に寄与することができれば、下田市の景観がさらに良くなっていくと考えています。

◆ 下田市景観計画の評価や今後の目指すべき方向性について貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。確におっしゃるように、この『下田まち遺産手帖』の発行を通算で22冊続けてきたことは、市民の皆さんに「下田まち遺産」を知っていただきたいという思いからです。もちろん、この周知のための活動はこれからも続けていく中で、この景観資源をどのように活用し、そして未来へつなげていくか。この検討を進めていかなければと私たちも考えています。
最後になりますが、田中課長が好きな下田の景観があれば教えてください。

（田中課長）

私は眺望が好きで、寝姿山の展望台からの眺望と、下田公園からの眺望が好きです。どちらも下田湾と旧町内を眺められ、眺めていると時間の流れがゆったりと感じられるのが良いですね。良い景観は、ひとを幸せな気分させてくれると思います。



静岡県が策定、運用している
「ふじのくに色彩・デザイン指針
（社会資本整備）第4版」（一部抜粋）



田中課長がオススメする寝姿山からの眺望
（認定番号：No. 51 寝姿山からの眺望）



田中課長がオススメする下田公園からの眺望
（認定番号：No. 122 下田公園からの眺望）